

優秀賞

自由な未来へ

当麻町立当麻中学校3年

しちのへ みみ
七戸 美心

うちは、自分の一人称を「私」というのが嫌いです。代わりに「うち」という一人称を使います。それはなぜか？自分の中では、「私」を使うのは女性というイメージが多くあるからです。女性であることや女性が嫌いだというわけではありません。しかし、今までの十四年間を振り返ってみると、「女だから…」「女なのに…」など、女性という理由でからかわれたり、あおられたりすることがありました。その体験から、「私」という一人称を使わないようにしてきたのです。

だからと言って「俺」や「僕」を使っても周りから変な目で見られてしまうような気がしますし、このまま「うち」を使い続けても社会に出たときに、礼儀にかけているというイメージを持たれると思います。そこで、あらためて差別について考えてみました。

現在では昔に比べ、SDGsの五つ目の目標であるジェンダー平等を実現しようという目標がかかげられたことで、世界的にジェンダー社会への理解が深まり、男女差別に対する改善の意識が高まってきています。しかし、日本ではまだ昔ながらの男は外仕事、女は家の仕事などの差別が抜け切れていないのではないのでしょうか？

そもそも、なぜ女性が男性より立場が低くなったのでしょうか。

私たち人類が狩りをしてきた時代はきっと男女の差別はなかったと思います。たぶん体格の差から男性は狩りに行き、女性は家事を行っていたのでしょう。しかし、この区別が長い時間をかけ差別へと変わり、徐々に人々の考え方が男尊女卑に移っていったのではないのでしょうか。しかし、現代では狩りをすることはありません。このような考え方はもう時代に合っていないのです。

男性女性関係なく活躍できる社会ができていくはずなのに、日本ではまだまだそこまでいていません。

現に日本の政治の場には圧倒的に女性が少ないです。例えば日本の都道府県知事47人中、女性の知事は2名しかいません。



外で仕事をするのが好きな女性や、料理や掃除をするのが好きな男性は、今の時代、多く見かけます。実際に私も家事などは得意ではありませんし、育児などにも苦手意識があります。また、スカート履くのも好きではありません。男だから女だからと押しつけられて苦しんでいる、もしくは苦しんだことのある人は、きっと私以外にもたくさんいるはずですよ。押しつけられるのではなく性別に関係なく、たくさんの選択肢から一人一人に合った仕事や環境があれば、今よりもさらに活躍する人が増え、社会の活性化にも繋がると思います。このようなことは、日本全体で性別に対する考え方を改めることで、性別について悩んでいる、もしくは苦しんでいる人を楽にできると思います。

ただ、女性を尊重しすぎるあまり、男性を苦しめてしまう可能性もあると考えられます。男だから、女だからということは関係なく、平等な社会には、どうすればいいのか？どうすれば良いジェンダー社会になっていくのか？私なりに四つのことを考えてみました。

一、男性が女性を、女性が男性を理解し、お互いに尊重し合う。

二、英語のように一人称を日本全体でそろえる。

三、すべての学校で女子がズボン、男子がスカートを自由に選択できる。

四、日本のすべての人がマイノリティーの方達を理解し寄り添い、ジェンダー社会を作っていくという意識をもつ。

一人称の実現は、理想でしかありませんがその他は、すべて実現可能だと思います。特にすべての学校で性別に関係なくズボンか、スカートを選擇できるというのは実現するべきです。これらの事をすべて現実にすることができれば、日本は今よりももっと、たくさんの人が生きやすい世の中になっていくと思います。

私自身、これまで生徒会長や応援団長など様々なことに取り組んできました。それは、私のまわりにいる人たちが、一人の人間として評価し、支えてくださったからこそ取り組むことが出来たものばかりでした。このようなことを社会全体で広めていくべきことだと思います。